

1 「超高齢社会に向けた地域交通のあるべき姿とは」

□ 地域特性に応じた地域交通基盤の整備とルール・マナーの遵守

- 地域特性に合わせた交通基盤の整備を推進する。【行政】[グループ①]
- 道路交通法を踏まえたルール・マナーを遵守する。【自分・家庭】[グループ①②]

□ 家庭・地域・行政が連携した自転車利用のルール・マナーの啓発及び意識向上

- 中高生を対象とした自転車利用のルール・マナーを家庭・地域・行政が連携して啓発することが重要。【自分・家庭/地域/行政】[グループ①]
- 特に高齢者や子育て世帯(2人・3人乗り、電動自転車)、若者への講習を地域で実施するなど、普及啓発によって自転車マナー・意識向上を図ることが重要。【自分・家庭/地域】[グループ②]

□ 誰もが安全に移動できる自転車利用環境の整備

- 自転車レーンの整備に向けては、比較的安価で、短時間で整備できる車道への青色ペイント等、できることから取組を進める。【行政】[グループ①]
- 歩行者・自転車・自動車の位置を区分するなど誰もが安全に移動できるハード整備を推進する。【行政】[グループ②]

□ 地域・企業・行政の支援と自らの意識を高めるウォーキングの推奨

- 環境にやさしく、自らの健康寿命を伸ばすウォーキングを推進する。【自分・家庭】[グループ①]
- 企業による徒歩通勤支援、地域ぐるみの取組及び行政による歩道整備等の連携によりウォーキングを推奨する。【地域/行政】[グループ①]

□ マイカー活用や路線バスの柔軟運営による適切で効率的な地域交通手段の確保

- マイカーや企業バスを活用した地域での乗合を推進し、高齢者等の移動ニーズにきめ細かく対応すべき。【地域】[グループ①]
- コミュニティ交通は、収益性も考え、最適な手段を選び活性化すべきだが、タクシー、企業協賛等、様々な方法を幅広く検討すべき。【地域/行政】[グループ②]
- 路線バスの乗換えをフリーにしたり、大型病院を拠点にしたりするオンデマンド化の推進。【行政】[グループ①]
- 路線バスの利便性向上については、高低差に配慮しながら、より使いやすくすべき。【行政】[グループ②]

□ 場所のシェア、カーシェア等のシェアによる有効活用

- 低未利用地や遊休地を活用し、買物駐輪場やカーシェア拠点として時間帯でのシェアで活用する。【地域】[グループ①]
- ショッピングバス車両のシェアによりバス交通の収益を改善させるなどの工夫をしてはどうか。【地域/行政】[グループ②]

□ プライオリティを明確化した道路整備の推進

- 道路整備については、市民の安全と利便性が向上するプライオリティの高いものから進めるべき。【行政】[グループ②]

2 「少子高齢社会における地域居住のあるべき姿とは」

□ 子育て世帯などが住み続けたい魅力づくり

- 税金をたくさん納めてくれるような世帯や子育て世帯を誘致し、定着してもらう仕組みを考えるべき【行政】[グループ①]
- 医療サービスを充実させ、商業・文化・コミュニケーションの場が充実していることを活かすなど、川崎市に住み続けたい魅力づくりを進めるべき。【地域/行政】[グループ②]

□ 高齢者が住み続けられるセーフティーネットとしての居住環境の提供

- 高齢者向けグループホームや市営住宅等によるセーフティーネットとしての住宅施設提供が求められる。【行政】[グループ①]

□ ゆるやかなネットワークづくりによる一人暮らし・孤立のない地域づくり

- なるべく一人暮らし・孤立化をしないように、日頃からゆるやかなネットワークをつくり、災害時などに対応できるようにしておくべき。【自分・家庭/地域/行政】[グループ①]

□ 地域で多世代が交流・同居できるしくみづくり

- 高齢者と若者のシェアハウスや、保育園と高齢福祉施設の複合化など、地域で多世代が交流・居住できる仕組みを整備すべき。【地域/行政】[グループ①]
- 保育・学童・高齢者施設をミックスした、多世代が交流できる場づくりが重要。【地域/行政】[グループ②]
- 親子や親戚が同居するための改修支援や、高齢者同士が同居するグループホームの整備を促進すべき。【地域/行政】[グループ①]

□ ライフステージに合わせた住み替え・改修、等価交換による住み替えの促進

- 既存の団地や空き家を有効活用し、バリアフリー改修や住み替えを促進すべき。【行政】[グループ①]
- ライフステージに合わせた住み替えができるよう、民間と連携し、賃貸住宅も活用しながら居住の流動性を高めることが重要。【自分・家庭/行政】[グループ②]
- 等価交換によって川崎市内で住み替えができるような公共による仕組みづくりが重要。【行政】[グループ②]

□ 公園の多機能化や地域での自主管理の推進

- 公園など人が集まりやすい場所を多機能化したり、地域での自主管理を推進したりすることが重要。【地域/行政】[グループ①]

□ 20年後、30年後の長期を展望した施設計画の推進

- 人口が増加している現状への対応だけでなく、20年後、30年後を意識し、施設の「転用」を前提に、成長期から成熟期までを計画段階から意識して整備することが重要。【行政】[グループ②]

キーワード

■ 「マナー」「意識向上」

自助及び共助、更に公助においても重要な概念として出てきた。セーフティーネットや安全にも関わりがあるキーワードである。

■ 「シェア」「交換」

場所のシェアやカーシェアリングといった「シェア」と、住まいの等価交換といった「交換」というキーワードが出てきた。税金を使って何かやるのではなく、ニーズが同じものは「シェア」し、異なるものは「交換」する。両者はつながる概念である。

■ 「長期展望」「ライフステージ」

20年後、30年後を意識したまちづくりが重要である。今だけを考えるのではなく、将来高齢者が増えたときにどうなるのか、長期展望を意識すべきである。また、ライフステージに合わせた住み替えも重要である。

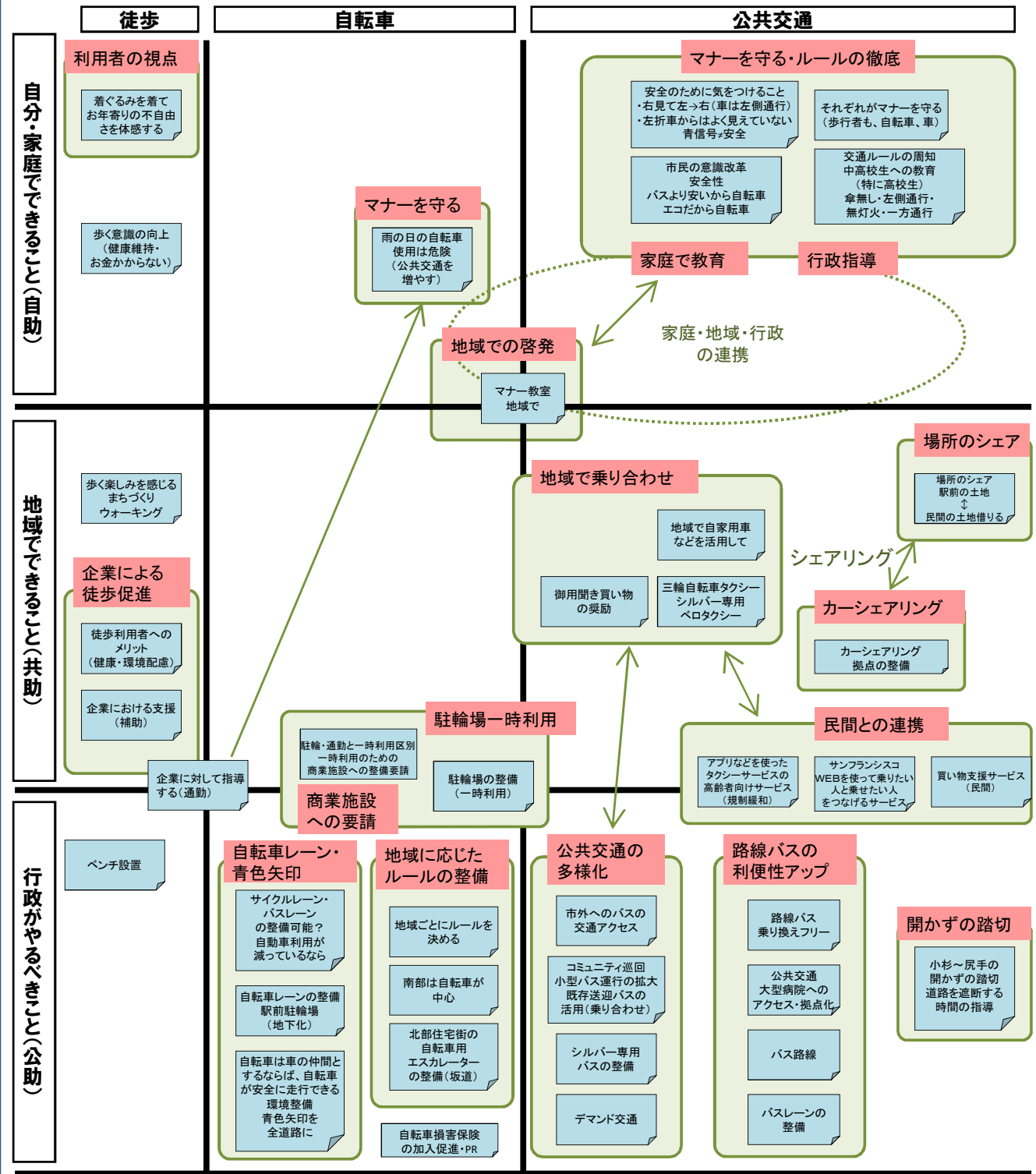
■ 「プライオリティ」

今回のテーマは全般的に公助に対する意見が多かったが、財政状況が厳しい中であり、プライオリティ(優先順位)をつけることが不可欠となる。

第3部会における意見のまとめ

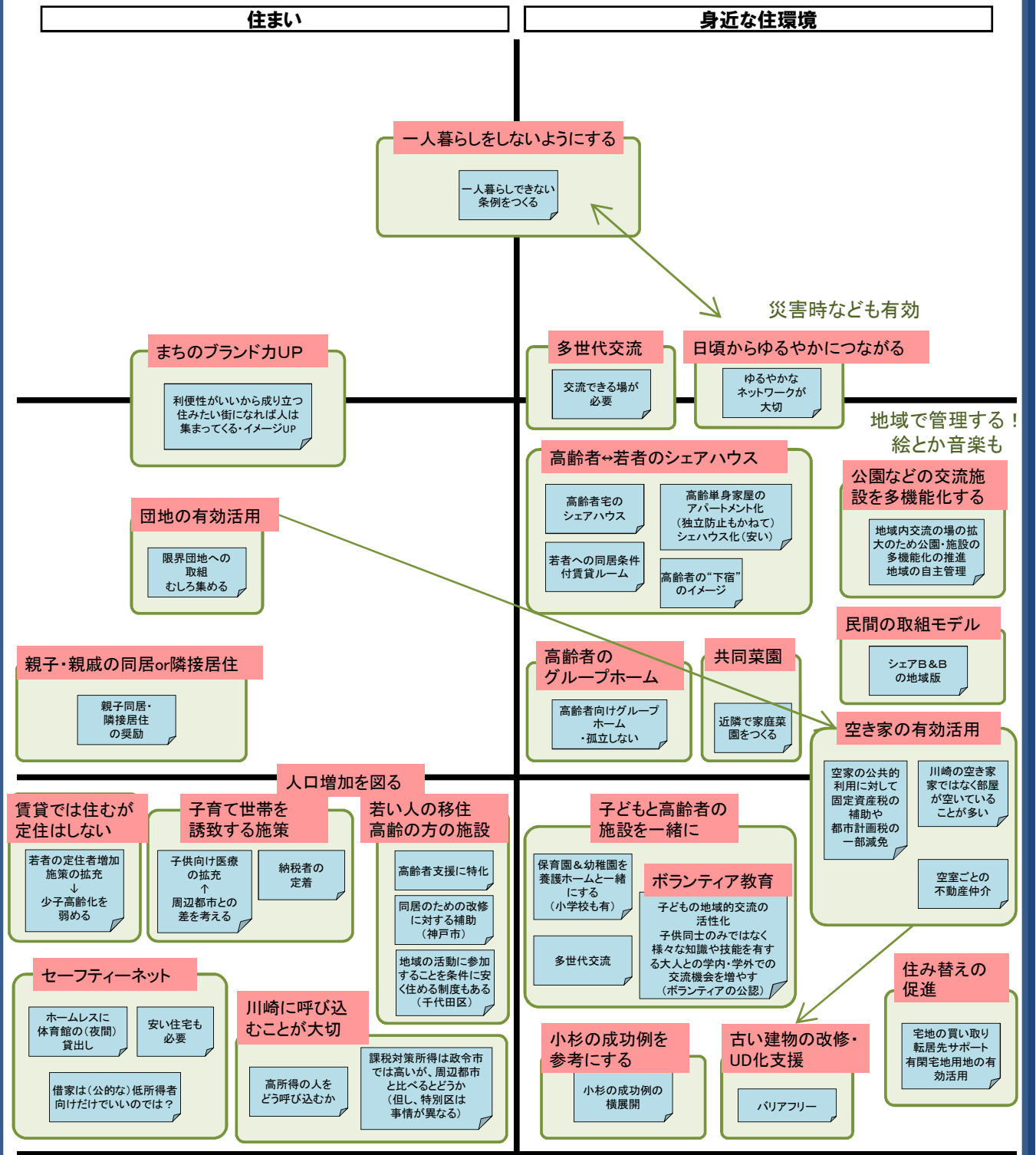
重点検討テーマ・分野	まとめのキーワード	部会における主な意見	分類			グループ		
			自分家庭	地域	行政			
4 活力と魅力あふれる力強い都市づくり (2)魅力ある都市拠点の整備と快適な地域交通環境づくり 3 市民生活を豊かにする環境づくり (2)緑豊かな環境づくり	地域交通	ルール・マナーの遵守 地域特性に応じた地域交通基盤の整備とルール・マナーの遵守	地域特性に合わせた交通基盤の整備を推進する。			●	1	
			道路交通法を踏まえたルール・マナーを順守する。	●			1・2	
		家庭・地域・行政が連携した自転車利用のルール・マナーの啓発及び意識向上	中高生を対象とした自転車利用のルール・マナーを家庭・地域・行政が連携して啓発することが重要。	●	●	●	1	
			特に高齢者や子育て世帯(2人・3人乗り、電動自転車)、若者への講習を地域で実施するなど、普及啓発によって自転車マナー・意識向上を図ることが重要。	●	●		2	
		プライオリティを明確化した道路整備の推進	道路整備については、市民の安全と利便性が向上するプライオリティの高いものから進めるべき。			●	2	
		徒歩	地域・企業・行政の支援と自らの意識を高めるウォーキングの推奨	環境にやさしく、自らの健康寿命を伸ばすウォーキングを推進する。	●			1
			企業による徒歩通勤支援、地域ぐるみの取組及び行政による歩道整備等の連携によりウォーキングを推奨する。			●	●	1
		自転車	誰もが安全に移動できる自転車利用環境の整備	自転車レーンの整備に向けては、比較的安価で、短期間で整備できる車道への青色ペイント等、できることから取組を進める。			●	1
				歩行者・自転車・自動車の位置を区分するなど誰もが安全に移動できるハード整備を推進する。			●	2
		公共交通	マイカー活用や路線バスの柔軟運営による適切で効率的な地域交通手段の確保	マイカーや企業バスを活用した地域での乗合を推進し、高齢者等の移動ニーズにきめ細かく対応するべき。		●		1
	コミュニティ交通は、収益性も考え、最適な手段を選び活性化すべきだが、タクシー、企業協賛等、様々な方法を幅広く検討するべき。				●	●	2	
	路線バスの乗換えをフリーにしたり、大型病院を拠点にしたりするオンデマンド化の推進。					●	1	
	路線バスの利便性向上については、高低差に配慮しながら、より使いやすくするべき。					●	2	
	場所のシェア、カーシェア等のシェアによる有効活用	場所のシェア、カーシェア等のシェアによる有効活用	低未利用地や遊休地を活用し、買物駐輪場やカーシェア拠点として時間帯でのシェアで活用する。		●		1	
			ショッピングバス車両のシェアによりバス交通の収益を改善させるなどの工夫をしてはどうか。		●	●	2	
	地域居住	居住環境	子育て世帯などが住み続けたい魅力づくり	税金をたくさん納めてくれるような世帯や子育て世帯を誘致し、定着してもらう仕組みを考えるべき。			●	1
				医療サービスを充実させ、商業・文化・コミュニケーションの場が充実していることを活かすなど、川崎市に住み続けたい魅力づくりを進めるべき。		●	●	2
			高齢者が住み続けられるセーフティーネットとしての居住環境の提供	高齢者向けグループホームや市営住宅等によるセーフティーネットとしての住宅施設提供が求められる。			●	1
			ゆるやかなネットワークづくりによる一人暮らし・孤立のない地域づくり	なるべく一人暮らし・孤立化をしないように、日頃からゆるやかなネットワークをつくり、災害時なども対応できるようにしておくべき。	●	●	●	1
			20年後、30年後の長期を展望した施設計画の推進	人口が増加している現状への対応だけでなく、20年後、30年度を意識し、施設の「転用」を前提に、成長期から成熟期までを計画段階から意識して整備することが重要。			●	2
多世代交流		地域で多世代が交流・同居できるしくみづくり	高齢者と若者のシェアハウスや、保育園と高齢福祉施設の複合化など、地域で多世代が交流・居住できる仕組みを整備すべき。		●	●	1	
			保育・学童・高齢者施設をミックスした、多世代が交流できる場づくりが重要。		●	●	2	
			親子や親戚が同居するための改修支援や、高齢者同士が同居するグループホームの整備を促進すべき。		●	●	1	
住み替え		ライフステージに合わせた住み替え・改修、等価交換による住み替えの促進	既存の団地や空き家を有効活用し、バリアフリー改修や住み替えを促進するべき。			●	1	
			ライフステージに合わせた住み替えができるよう、民間と連携し、賃貸住宅も活用しながら居住の流動性を高めることが重要。	●		●	2	
	等価交換によって川崎市内で住み替えができるような公共による仕組みづくりが重要。				●	2		
公園	公園の多機能化や地域での自主管理の推進	公園など人が集まりやすい場所を多機能化したり、地域での自主管理を推進したりすることが重要。		●	●	1		

1 「超高齢社会における地域交通のあるべき姿とは」



- 北部・南部など地域の特性に応じた地域交通基盤やルールの整備 ●
- 家庭・地域・行政が連携したマナー・ルールの啓発・徹底 ●●●
 - 家庭での教育、地域でのムーブメントによる意識改革、特に中高生に向けた学校での啓発、一時利用自転車(駐輪)の整理に関する行政から商業施設への要請等
- 地域ぐるみの取組や企業による支援も生かしたウォーキングの推奨
 - 市民自ら歩く意識を高め、地域のまちづくりウォーキングや企業による徒歩通勤者への支援、行政によるベンチ設置等
- 地域での乗り合わせの推進による高齢者等の移動ニーズへのきめ細かな対応
 - マイカーを活用したボランティアのオンデマンド交通や、シルバー専用の三輪車タクシーの導入など
- 自転車レーンの整備促進と、簡易な青色着色など「できるところから」の迅速な対応 ●
- 地域でのデマンド交通など既存の路線バス、コミュニティバス等の利便性向上の推進 ●●●●
 - 民間と連携し、路線バスの利便性を高める(乗り換えフリー、大型病院を拠点化等)
- 時間帯単位など場所のシェアで駐輪スペースの確保、カーシェアリングの推進 ●●

2 「少子高齢社会における地域居住のあるべき姿とは」



- ゆるやかなネットワークづくりを進め、なるべく一人暮らしのない(孤立化しない)地域づくり ●
 - 日頃からゆるやかな地域のネットワークを構築し、災害時なども対応できるようにしておく
- 高齢者と若者、高齢者と子どもなど、地域での多世代交流・居住の促進 ●
 - 保育園と高齢福祉施設の複合化(教育効果も期待できる)、高齢者と若者のシェアハウスなど
- 既存の団地や空き家を有効活用し、住み替えや改修をサポート ●
 - 団地の有効活用、空き家の有効活用、バリアフリー改修の支援制度など
- 税金をたくさん納めてくれるような世帯や子育て世帯の誘致・定着化 ●
- 親子や親戚が近くに住んだり、高齢者同士が同居したりできる仕組みづくり
 - 同居改修支援、高齢者のグループホームなど
- 高齢者を含む低所得者のセーフティーネットとしての安価な住宅の提供
- 公園などが集まりやすい場所の多機能化と地域での自主管理の推進

まとめ

